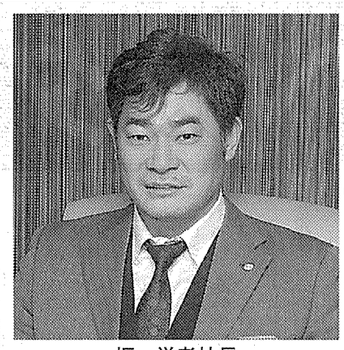
精密部品の加工会社
株式会社坂製作所

「極小型コンプレッサー」開発成功で一躍脚光浴びる


坂　栄孝社長

オンリーワンに生きる〈69〉

騒音レベルを大幅に低下

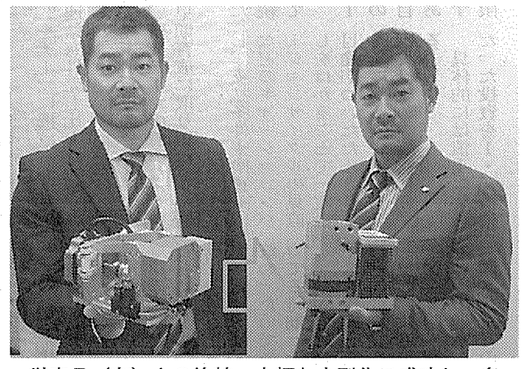
株式会社坂製作所（京都市右京区、坂栄孝社長）は1960（昭和35）年創業の精密部品の加工会社。創業時よりオムロンなどの精密部品の加工を請け負いながら技術力を高めてきた。現在も下請けを主力としながらも、その技術を活かした「極小型コンプレッサー」の開発で独自色を強め、一躍脚光を浴びている。

坂社長は大阪商業大学卒業後、島津グループの企業でIT関係の業務に従事し、将来は起業を考えていたという。「私が新卒で入社した頃、企業は生産拠点を海外に移し、グローバル化、空洞化と、非常に苦しい時期でした。将来は起業するつもりでしたが、下請けだけでは先細りしていくと危機感を強く持つようになり、家業を継ぐことに決心したのです」と当時を振り返る。

家業を継ぐまでは空手に熱中し、国体代表に選出された経験を持つ坂氏は機械に関して素人同然であったが、そのぶん先入観がなかったことが幸いしたという。その後、試行錯誤を繰り返し、これまで培った経験と技術を活かせる分野としてたどり着いたのがコンプレッサーだった。

極小型化に成功した秘訣は、『浮動スクロール』と呼ばれる、空気を圧縮する部品にある。圧縮室と呼ばれる空間で空気を圧縮するが、空気を漏らさないようにするために金属部品の表面にプラスチックなどを塗布することもあるが、耐久性や圧縮効果が大幅に低下する。

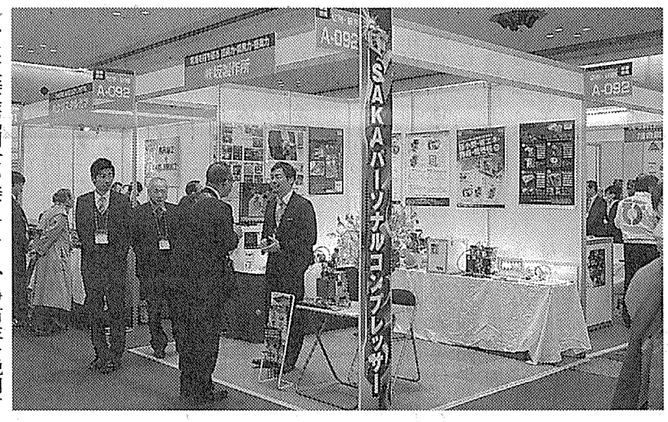
同社の『浮遊スクロール』は直接金属同士の接触をなくすことで、騒音や振動の低下だけでなく、同じ構造の従来品と比べて回転数も増やすことができ、小型化することに寄与した。坂氏は、「一般的なコンプレッサーは、騒音レベルが約70db（デシベル）ですが、当社のコンプレッサーは標準タイプで50db程度です。これは静かな事務所の騒音と同じくらいです。人間の耳だと1／3程度に感じる差で


従来品（左）との比較。大幅な小型化に成功し、多くの有名企業からの問い合わせが相次ぐ

音や振動が発生してしまう。また、音を小さくするために金属部品の表面にプラスチックなどを塗布することもあるが、耐久性や圧縮効果が大幅に低下する。

同社の『浮遊スクロール』は直接金属同士の接触をなくすことで、騒音や振動の低下だけでなく、同じ構造の従来品と比べて回転数も増やすことができ、小型化することに寄与した。坂氏は、「一般的なコンプレッサーは、騒音レベルが約70db（デシベル）ですが、当社のコンプレッサーは標準タイプで50db程度です。これは静かな事務所の騒音と同じくらいです。人間の耳だと1／3程度に感じる差で

「京都中小企業優秀技術賞」などを受賞



京都ビジネス交流会2016にもブースを出展。同社の極小型コンプレッサーは来場者の注目を浴びている

小企業優秀技術賞」受賞など広く知られることになった。坂氏も講演会やセミナーなど講演活動を積極的にこなし、京都商工会議所青年部の筆頭副会長として後任の育成に汗を流す。

「京都で生まれ育った当社は京都に恩返しをする義務があります。昔からものづくりで発展してきた京都を盛り上げるためにも、私にできることは何でもやってやろうと考えています」と力強く話す。将来について「現在コンプレッサー事業は売上げの2割程度ですが、半分ぐらいに伸ばしたいと考えています。下請けとして、メーカーとしてバランスを取りながら京都とともに発展していきたい」と抱負を語る。

◇

〈所在地〉京都市右京区花園伊町44―12
〈TEL〉075―463―4214
〈URL〉http://www.sakas.com

地域創生　産学金連

第2弾は“さ

梅花女子大学がレシピを

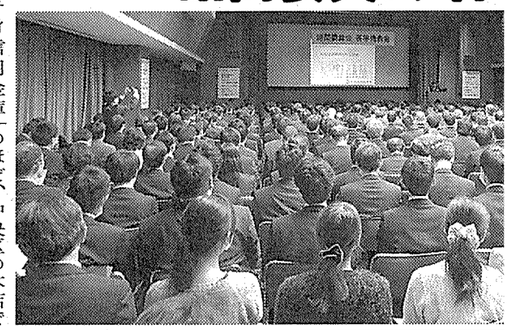
（左から）梅花女子大学食文化学部食文化学科4回生の大野詩歩さんと石居千歩さん、鯖やの右田社長、ベルの中内開発営業部長、池田泉州銀行の堀内執行役員

されるオメガ3脂肪酸などの栄養素を多く含んでいるため、サバをスイーツにアレンジすることで女性のサバに対するネガティブなイメージの払拭やサバの美容・健康への効能を発信することが狙い。

商品化では〝さばだしラーメン〟の開発で実績のある梅花女子大学食文化学部の学生が女性目線でレシピを考案し、神戸の老舗洋菓子メーカーの「神戸ベル」が製造した。

「SOZAI!さばドーナツ」は鯖やの物販各店舗やSABAR各店舗

大阪シティ信用金庫　諮問委員会 答



大阪シティ信用金庫（河村正雄理事長）はこのほど、中央区の本店で「諮問委員会　答申発表会」を開催した。

諮問委員会は1983（昭和58）年にスタートし、今回を含め、延べ1214名の役職員が177のテーマに取り組んできた。同金庫では「職員からの意見、提案を積極的に経営に取り入れるとともに、職員が職場横断的にあたり、「兵庫県がすすめる同協定と通じるところが多々あるのでさらに子育て応援のためにまい進していきたいです」と話している。

「子育て応援協定」とは、急速に進行する少子化の流れを変えるためには、民間と行政が一体となり、社会全体で子育て支援が必要なことから、一人ひとりが生命の大切さ、家庭や子育ての大切さを考え、誰もが安心して子供を生み育てることができる地域社会の実現に向けて、ともに取り組んでいく協定のことをいう。

まで半年間議論してとりまとめた提言を発表、約500名の役職員が聴講した。定年退職者の有効活用やセールス提案書様式の統一、内容が重複する融資書類の簡素化など、様々な提案が出された。具体的なものは同庫の来年度事業計画に反映させていく。

諮問委員会は1983（昭和58）年にスタートし、今回を含め、延べ1214名の役職員が177のテーマに取り組んできた。同金庫では「職員からの意見、提案を積極的に経営に取り入れるとともに、職員が職場横断

長）は大手学習塾として近畿圏を中心に「個別指導キャンパス」の名称で約230教室を展開しているがこのほど、兵庫県私学会館で井戸敏三・兵庫県知事と「子育て応援協定」を締結した。

同協定は①子育てと仕事が両立できる職場環境の整備②地域における子育ての支援③若者の職業的自立の支援④独身男女の出会いの場づくり⑤女性等の再雇用の支援等、の取り組みの2つ以上を行っている企業が対象事業者の条件であり、同社はこれらの項目に該当する取り組みを行っている

見た目は
普通のジャケット？
実は、襟と身頃が